



# 平成 18 年度第 1 回三宅島磯根資源調査報告書

東京都島しょ農林水産総合センター大島事業所

## 目的：

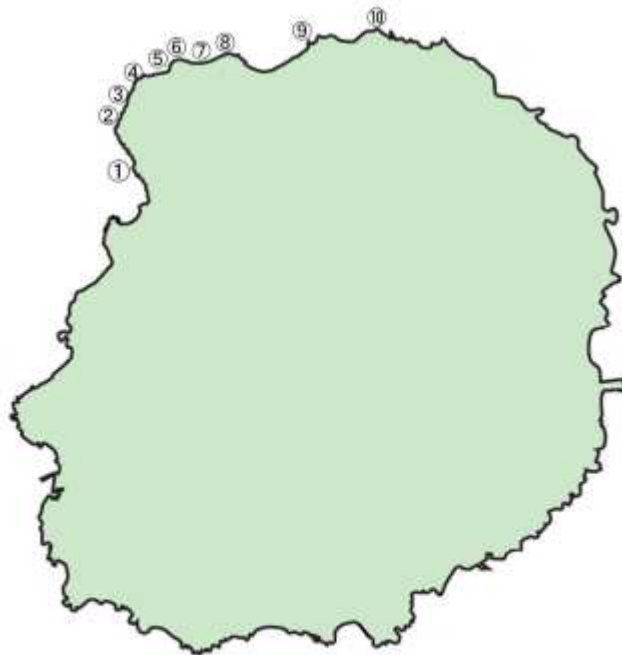
三宅島において、磯根漁業の産業重要種であるテングサ、サザエ、トサカノリ等の資源調査を行い、漁業者に情報を提供する。今回は、三宅島北西部の 10 漁場で調査した。

**調査日：**平成 18 年 5 月 10 日（水）

**備 船：**第 10 金丸（船長：三宅島漁協沖山邦男組合長）

**調査地点：**三宅島北西部  
10 地点（水深 10 m 以浅）

の



平成 18 年度第 1 回三宅島磯根資源調査地点図

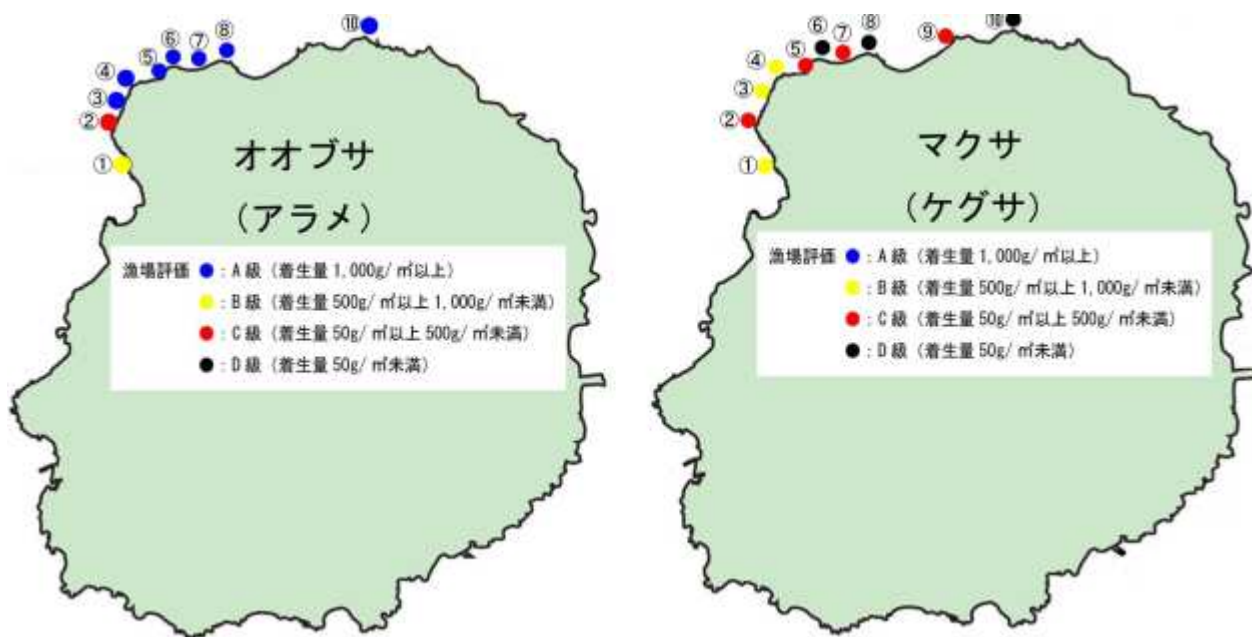
## 調査項目：

オオブサ、マクサの  $0.5 \text{ m}^2$  枠取り調査（ $1 \times 0.5 \text{ m}$  枠）によって着生量を把握し、調査地点毎に作柄評価を行った。評価基準は A 級（着生量  $1,000 \text{ g}$  以上/ $\text{m}^2$ ）、B 級（着生量  $500 \text{ g}$  以上  $1,000 \text{ g}$  未満/ $\text{m}^2$ ）、C 級（着生量  $50 \text{ g}$  以上  $500 \text{ g}$  未満）、D 級（着生量  $50 \text{ g}$  未満）とした。また、枠取りでサンプリングした藻体 10 本の藻長を計測し、平均値を算出した。トサカノリは目視観察により着生量を判定した。

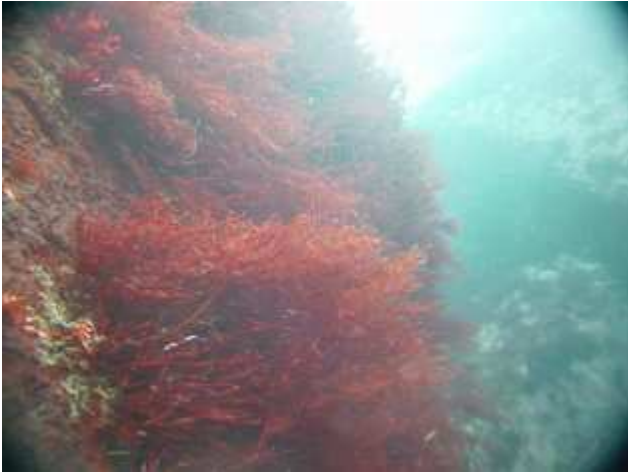
## 調査結果：

表 1 . オオブサ、マクサ調査結果（漁場評価）

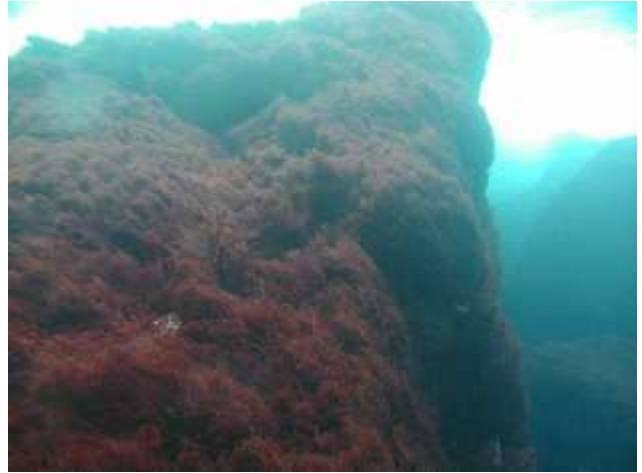
調査地点	オオブサ			マクサ			トサカノリ
	漁場 評価	1m <sup>2</sup> 当たり の着生量 (g)	平均藻長 (mm)	漁場 評価	1m <sup>2</sup> 当たり の着生量 (g)	平均藻長 (mm)	
クズレイシ	B	966	212	B	627	123	(少ない)
伊豆岬	C	411	171	C	384	139	(少ない)
アゲハマ	A	1082	190	B	970	161	(少ない)
ハシガサキ	A	1183	202	B	523	128	× (なし)
マタズシロ	A	1714	214	C	419	160	(多い)
アカゲンサキ	A	1449	208	D	-	-	(多い)
サワジリ	A	1018	175	C	443	144	(少ない)
シミズシタ	A	1002	165	D	-	-	(多い)
ジョウネ	?			C	319	148	(非常に多い)
アカイシ	A	1341	210	D	-	-	(少ない)



**オオブサ(アラメ)**: 伊豆岬でやや着生量や着生範囲が少なかったものの、他の漁場ではいずれも潮間帯下部から水深 3 m 程度の巨岩や根石の側面に広範囲にわたって非常に多く着生していた。藻長はおおむね 200mm 程度と長く、付着物も少ないため、良質と考えられた。



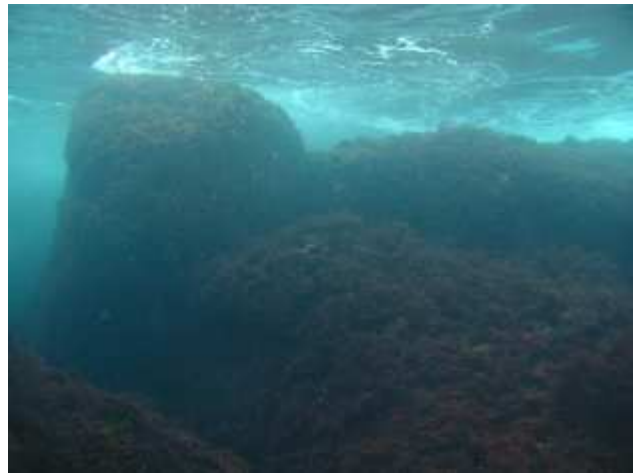
クズレイシのオオブサ群落 (藻長が長くて付着物が少ない)



マタズシロのオオブサ群落 (根石にびっしりと着生しており、質も良好であった)



アカゲンサキのオオブサ拡大写真 (長くて付着物が少ない)



アカゲンサキのオオブサ群落 (根石一面にびっしりと着生している)



サワジリのオオブサ群落



シミズシタのオオブサ群落

**マクサ(ケグサ):** クズレイシから ハシガサキにかけては、昨年よりも着生量は多く、生育範囲も明らかに広域に及んでいた。藻質については、クズレイシ、伊豆岬、アゲハマ、ハシガサキではハナ付きがごくわずかにみられ、藻質は「並」であった。しかしながら、確実に回復していることが明らかになった。他の から の場所では、着生量自体が少なく、サワジリや ジョウネではハナ付きやヌマ付きの割合が多く、質は良くなかった。



クズレイシのマクサ群落 (昨年よりも着生量  
るかに多かった)



クズレイシのマクサ (岩と岩の隙間にも多  
く着生していた)



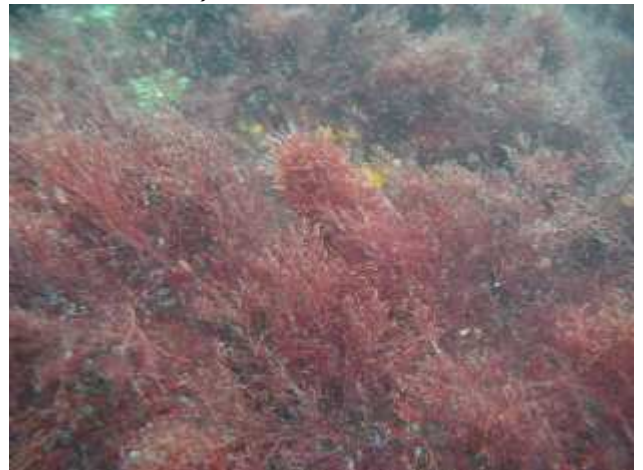
伊豆岬のマクサ群落 (昨年とほぼ同じ位の  
着生量であった)



アゲハマのマクサ群落 (1m<sup>3</sup> 辺りの着生量は  
最も多かった)

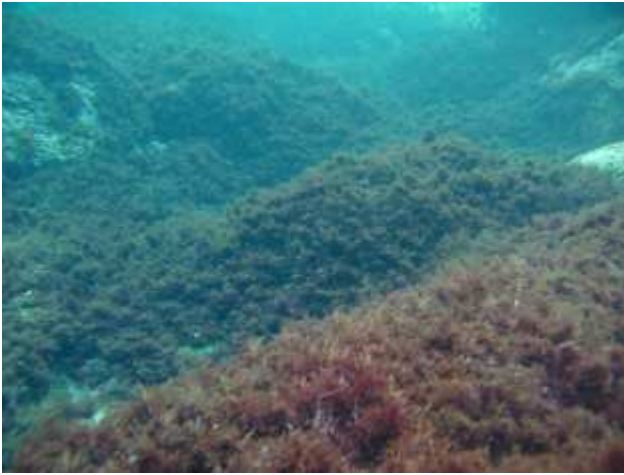


ハシガサキのマクサ群落 (1m<sup>3</sup> 辺りの着生量  
も多かったが、生育域はここが最も広がった)



ハシガサキのマクサアップ (ごくわずかにハ  
ナ付きがみられた)

**オバクサ(ドラクサ):** 今回調査したすべての漁場の水深 3m から 10m 付近で非常に多くみられ、昨年と比べて急速に回復していることが伺えた。特に、伊豆岬や アゲハマでは非常に多く着生しており、カーペット状に広域な群落を形成していた。付着物は少なかった。



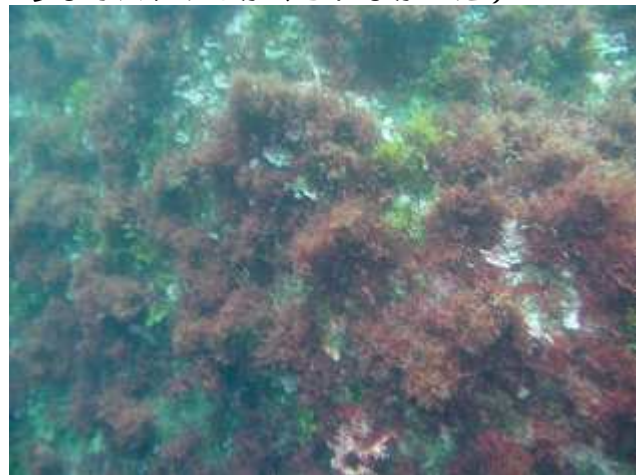
伊豆岬のオバクサ群落（岩盤一面に群落が広がっており、付着物は少なかった。昨年まではこのような良質な群落はみられなかった）



伊豆岬のオバクサ群落（藻体にサンゴモが付着しており、質は悪い。昨年まではこのようなオバクサしかみられなかった）



アゲハマのオバクサ群落（伊豆岬同様、良質なオバクサ群落であった）



サワジリのオバクサ群落（付着物が多く、質は悪い）



シミズシタのオバクサ群落（付着物が多く、質は悪い）



ジョウネのオバクサ群落（水深 5m 以浅は着生量が多かった。付着物は少なかった。）

**トサカノリ**：今回は水深 10m 以浅での調査であったが、 ジョウネでは広範囲にわたって非常に多く着生していた。 マタズシロ、 アカゲンサキ、 シミズシタでも比較的多く着生していた。草長は全体的に短く 200mm 程度のものが多かったが、ジョウネでは藻長が 300mm 程度の長いものも多くみられた。



伊豆岬のトサカノリ群落（着生量は少なかった）



アゲハマのトサカノリ群落（場所によっては密に着生していた）



マタズシロのトサカノリ群落（比較的、着生量は多かった）



アカゲンサキのトサカノリ群落（マタズシロ同様着生量は比較的多かった）



シミズシタのトサカノリ群落（場所によっては密に分布していた）



ジョウネのトサカノリ群落（今回、6m 以深で着生量が非常に多かった）

**フクトコブシ：** ハシガサキと ジョウネで生息が確認された。ジョウネでは多くみられた。

**サザエ：** 今回の調査漁場では、サザエの生息はみられなかった。

**その他：** ジョウネでは漁獲サイズのタカベの群れがみられた。



**調 査：** 東京都島しょ農林水産総合センター大島事業所  
安藤和人  
滝尾健二  
川辺勝俊（とりまとめ）  
向山常比古  
漁業調査指導船「やしお」小湊教行船長他乗組員 6 名

〒 100-0212 東京都大島町波浮港 18 番地  
電話 04992-4-0381  
FAX 04992-4-0383